

解剖訓蒙

脈管論

十



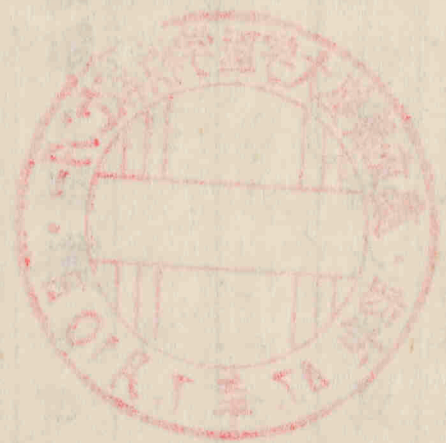
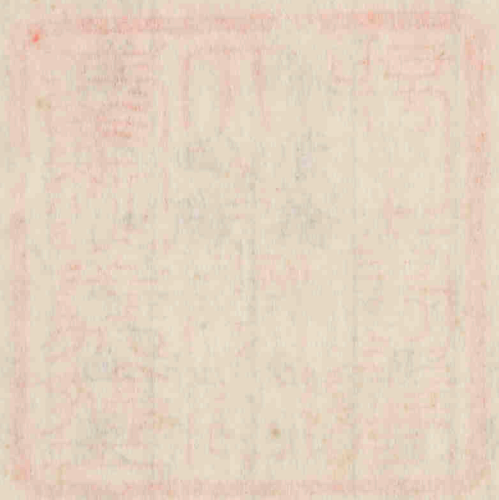
✕

---

k10-2

---

F 10  
カ-22



藏文博士著

3545





カ  
ル  
シ  
ア

解剖訓蒙卷之十

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著

日本 文部大助教横井信之譯

脉管論

心臟

心臟トハ、血液循環ノ樞機ニシテ、大ニ發血力

ヲ具有シ、胸腔内ニ在リテ、纖維様清膜即チ心囊之ヲ

裹包ス其位置ハ、兩肺ノ間々、横膈ノ上ニ於テ、右

側ヨリ、左側ニ偏タヨリ、而テ稍ヤ斜傾ス、其形式

ハ、圓錐狀ニシテ倒垂シ、唯々底面ノミ、血管ノ媒

解剖訓蒙

卷之十

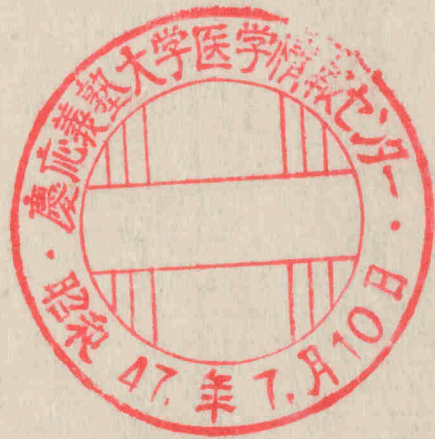
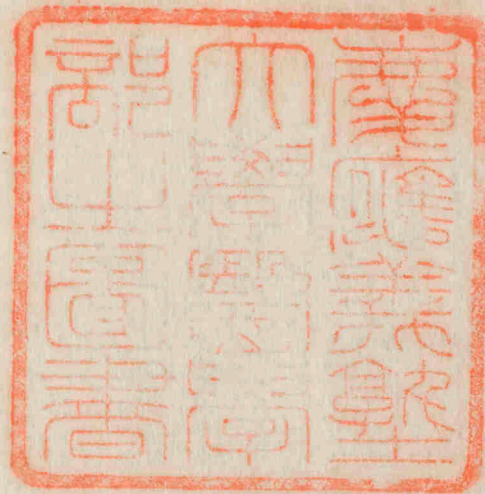
一

491.1

Ka-3  
10

No. 2396

IR 10-2



富士川文庫

2456

甲 マクロ

乙 マグノ、オプトシユス

丙 マグノ、アクチユス

介ニ由テ、脊椎柱ノ前面ニ繋連ス、故ニ基礎ノ他  
ハ、全ク遊離シテ、附着スル所無シ、

心臟底面 スベハ、上後方及ヒ右側ニ向ヒ、殆ト背

椎ノ第四片ヨリ第八片ニ達シ、尖端 ポア ペン ト又

ハ、前下方及ヒ左側ニ向ヒ、肋軟骨ノ第六片ニ對

シ、前面 サ アン ヘ テ リ オ ル、ハ、圓ク凸隆シテ、上前方ニ向

ヒ、後面 サ ホ ス ヘ テ リ オ ル、ハ、扁平ニシテ、横膈ニ接シ、左

緑 レ フ ト、ボハ、頗ル鈍ニシテ、斜ニ上方ニ向ヒ、右

緑 ラ デ イ ト、ボハ、稍ヤ長シテ斜ニ下方ニ向フ、

心臟ハ、空竅ナル一肉塊ニシテ、内位及、外表共

甲 シュルクス、ロンギユチ

乙 デナーリス、

丙 シュルクス、シルキラリス

丁 アトリア、

全 シニユス、

全 コル、ヘノシユス、

丁 セブチム、アントリム、

ニ、被膜ヲ具有ス其色ハ、黯黒ニシテ、膜様白線、或

ハ斑点ヲ呈セリ、又屢、脂肪組織ノ存ルヲ以テ、黄

色ナルヲアリ其重量ハ、殆ト十ヲ、其丈ハ、殆ト五

イシチ、其幅ハ、殆ト三イシチ半ナリ、外表ニ縦横

ノ二溝アリテ、内位ノ四個ナルヲ證ス、是即千二

個ノ心耳及ヒ心室ナリ、以下之ヲ辨説ス、

心耳 ク ア ル ウ リハ、空竅且ツ薄壁ニシテ、即千心ノ底

部ヲ造成ス、蓋シ其前方ニ、耳狀属部ノ突出スル

ヲ以テ名ク其内位ニ中隔アリテ、左右ノ二部ニ

區別セラレ、各、大静脈幹ト連結ス、大静脈幹ト及

上下大静脈及

甲 オステユム、アントリヲ、  
ブエントリキラル、  
全 オステユム、ヘノシエス

乙 エントリキリー、  
全 コル、アテリオシユ、

心室 乙 クレンストリ、ハ、厚壁ノ空竅ナリ、殊ニ其尖端ハ、  
 最モ厚部ヨリ造成ス、亦タ内位ニ中隔アリテ、左  
 右ノ二部ニ區別セラレ、各、大動脈幹ト連続ス、大  
 動脈幹トハ、肺動脈、及ヒ大動脈ニシテ、血  
 液ヲ身体ノ諸部ニ輸送スル者ナリ、此幹口ニ、  
 碍ナキナリ、  
 シ、以テ血液ノ逆流スルヲ抗拒ス、然レモ其順流  
 シテ、心耳ヨリ心室ニ下降スルニ於テハ、少モ障  
 室ト相通シ、此孔ニ著明ナル器械的ノ瓣ヲ具有  
 心耳ハ 甲 心耳室孔 乙 キラール、オロ、ブエントリ  
 ヨリ受ケ、心臓ニ血液ヲ送ル者ナリ、

甲 アトリユム、デキストリユム  
乙 アウリキユロ、コルジス、  
デキストラ、

丙 タラベキユラ、カル子

著明ナル三瓣列張シ、以テ血液ノ心室ニ逆流ス  
 ルヲ抗拒セリ、  
 右心耳 甲 ライト、オウ、ハ、長形ナル空竅ニシテ、一方ノ  
 端ニ、三角形ノ稍ヤ鋸齒縁ナル 乙 耳狀屬部 丙 クール、ア  
 ジペンデヲ有ス、此部、前方ニ向ヒ、大動脈起根ノ外  
 側ニ於テ、展延突出セリ、其壁ハ、至薄透明ナレモ、  
 前外部、及ヒ耳狀屬部ニ於テハ、甚タ厚ク、且ツ突  
 兀トシテ不齊ナリ、是レ他ナシ、其内位ニ、筋纖維  
 即チ 丙 櫛筋 乙 ペクチ子 甲 マスクル、アリテ、参差離居スレハナ  
 リ、然レモ其自餘ノ内面ハ、頗ル滑澤ナリ、

右心耳ノ後方ニ於テ、上下ノ大靜脈管開口シテ、  
 共ニ前方ニ向ケリ、故ニ其中間ニ於テ、心耳内面、  
 稍ヤ隆起ノ鈍角ヲ呈ス、之ヲ「ロウエリ氏」ノ結節  
 ト稱ス、此兩口ハ、共ニ無瓣ナリ、然レ氏、其管ノ方  
 向、自ラ血液通過ノ便ニ供スルヲ以テ、逆流ノ虞  
 アラス、唯夕環收ノ時、其血流互ニ交叉シテ、統歸  
 スルノミ、  
 右心耳ノ内面ニシテ、左心耳トノ中隔ニ於テ、至  
 淺ナル壓痕アリ、**卵圓窩** ルヲバ、ホッサート稱ス、其周縁隆  
 起シテ圍擁セリ、此窩ハ、胎兒ノ時、兩心耳交通

ワルヒ、ラ、エウスタキ

**卵圓孔** ホラノルノ蹤蹟ナリ、此窩底ノ至薄  
 透明ナル部ハ、當時ノ卵圓孔ノ瓣ニシテ、血液ノ  
 逆流ヲ防禦セシ者ナリ、又屢、此窩ノ上部ニ於テ、  
 斜ナル裂痕ヲ有セリ、亦、當時、兩耳ノ交通セシ  
 一部ナリ、  
 胎兒ノ時ニ於テ、膜様ナル新月形ノ皺襞、所謂「**エ**  
 ウスタキ氏瓣」ナル者アリ、下大靜脈ノ右側ヨリ  
 延展シテ、其前縁ニ沿ヒ、卵圓孔ニ達シ、以テ彼ノ  
 脈管ヨリ卵圓孔ニ通過スル、血液ノ循行ヲ助ケ  
 リ、此瓣ハ、大人ニ至ルモ、尚其殘痕ヲ見ルヘク、而

甲チステラム、左ノシエム、  
デキストラ

乙アトリウム、シニストラム、

テ多少網状ノ穿孔ヲ貽スヲ通常トス  
此瓣ノ左端ト心耳室孔トノ間ニ於テ、冠静脈孔  
アリ、其内ニ新月様瓣ヲ以テ擁護セリ、又々右心  
耳ノ内面ニ於テ、小静脈ノ數孔アリ

右心耳室孔 ライイト、オリキユロ、グエン  
リキユラール、チリハイヌ トハ、下行大

静脈孔ノ前方、及ヒ左側ニ在リ、其形、橢圓ニシテ、  
徑度殆ト一「インチ」タリ、其孔内ニ於テ、滑沢ノ稍  
隆起シタル周縁アリ、是レ三尖瓣ノ附着スル所  
ナリ、

左心耳 レフト、オウ ハ、圓錐形ノ空窾ナリ、亦々前方

ニ於テ、稍ヤ長キ鋸齒縁ハ耳狀屬部 オウ  
ル、アバツン

デジ アリ、此部突出且ツ展延シテ、肺動脈起根ノ

左側ニ至ル、其壁ハ、右心耳ニ比スレハ、稍ヤ厚シ

テ透明ナラス、其内面ハ、滑澤ナレ氏、耳狀屬部ニ

於テハ、櫛筋 パクスチ ヲ有スルカ故ニ、亦々突

兀トシテ不齊ナリ、

左心耳ノ後部ニ於テ、四個ノ肺静脈開口セリ、各

前下方ニ於テ、心耳室孔 アリ、其造構ハ、右心耳ニ

同シトス、

右室  
トライクト、フエン  
ハ、三角形ニシテ、左室ニ較レハ、

心ノ前面ニ位ス其底面ハ、上後方ニ向テ、右心耳  
ニ連続ス、其頭角ハ、前下方ニ向フ、然レ氏全ク心  
ノ尖端ニ達セス、其壁ハ、稍ヤ薄シテ、殆ト一「イン

チノ四分一タリ、而テ左方ノ壁、即チ兩室ノ「中隔  
バルチハ、内位ニ彎隆ス、故ニ右室ヲ横斷スレハ、  
恰モ新月様ヲ呈セリ、

右室ノ内面ニ於テ、無數ノ圓キ突出セル筋纖維  
アリ、之ヲ筋柱筋柱コカヘムノス、ト稱ス、其大小及ヒ

方向ハ、各柱同シカラス此柱ハ、壁面ノ一部ヨリ  
起根シテ、他部ニ附着シ、互ニ錯綜交叉セリ、故ニ  
内面甚タ突兀トシテ不齊ナリ、

筋柱ニ、尤モ巨大ニシテ、且ツ乳頭形ノ者アリ、  
頭筋ト稱ス、亦タ壁面ヨリ突出シ、而テ細キ腱索  
テ、コンジドノ「ヲ以テ、三尖瓣ノ游離縁ニ附着ス、

右心耳室孔  
ライイト、オリキユロ、グエント  
ハ、室ノ底  
面ノ下後部ニ在テ、其縁ヨリ廣キ膜様ノ皺襞突  
出セリ此皺襞ハ、不正ニ分裂シテ、三個ト為ル、故  
ニ三尖瓣トトリキユス、バト稱ス、此瓣ノ下部、即チ遊  
離縁ハ、數條ノ腱索ヲ以テ、彼ノ乳頭筋ト、其間隙

右室  
トライクト、フエン  
ハ、三角形ニシテ、左室ニ較レハ、  
心ノ前面ニ位ス其底面ハ、上後方ニ向テ、右心耳  
ニ連続ス、其頭角ハ、前下方ニ向フ、然レ氏全ク心  
ノ尖端ニ達セス、其壁ハ、稍ヤ薄シテ、殆ト一「イン  
チノ四分一タリ、而テ左方ノ壁、即チ兩室ノ「中隔  
バルチハ、内位ニ彎隆ス、故ニ右室ヲ横斷スレハ、  
恰モ新月様ヲ呈セリ、  
右室ノ内面ニ於テ、無數ノ圓キ突出セル筋纖維  
アリ、之ヲ筋柱筋柱コカヘムノス、ト稱ス、其大小及ヒ  
方向ハ、各柱同シカラス此柱ハ、壁面ノ一部ヨリ  
起根シテ、他部ニ附着シ、互ニ錯綜交叉セリ、故ニ  
内面甚タ突兀トシテ不齊ナリ、  
筋柱ニ、尤モ巨大ニシテ、且ツ乳頭形ノ者アリ、  
頭筋ト稱ス、亦タ壁面ヨリ突出シ、而テ細キ腱索  
テ、コンジドノ「ヲ以テ、三尖瓣ノ游離縁ニ附着ス、  
右心耳室孔  
ライイト、オリキユロ、グエント  
ハ、室ノ底  
面ノ下後部ニ在テ、其縁ヨリ廣キ膜様ノ皺襞突  
出セリ此皺襞ハ、不正ニ分裂シテ、三個ト為ル、故  
ニ三尖瓣トトリキユス、バト稱ス、此瓣ノ下部、即チ遊  
離縁ハ、數條ノ腱索ヲ以テ、彼ノ乳頭筋ト、其間隙

右心耳室孔  
ライイト、オリキユロ、グエント  
ハ、室ノ底  
面ノ下後部ニ在テ、其縁ヨリ廣キ膜様ノ皺襞突  
出セリ此皺襞ハ、不正ニ分裂シテ、三個ト為ル、故  
ニ三尖瓣トトリキユス、バト稱ス、此瓣ノ下部、即チ遊  
離縁ハ、數條ノ腱索ヲ以テ、彼ノ乳頭筋ト、其間隙

トニ繋維ス此瓣ハ孔ノ開披スル時ニハ其分裂ノ部各直立シテ殆ト室壁ニ抵触ス三尖瓣及ヒ腱索ノ造構ハ心ノ裡膜ノ重襞ヨリ造成ス其質ハ纖維組織ヲ含蓄スルヲ以テ強剛ナルヲ得タリ

右室底面ノ前角ニ於テ肺動脈其起根ヲ取ル此脈孔ハ三個ノ半月瓣ヲ以テ擁護ス此室ト此脈ト交通スル裡面ハ頗ル滑澤ニシテ毫モ血液流通ノ障碍ヲ為サス件ノ半月瓣ハ膜樣ノ重襞ニシテ脈孔ノ内圍ニ

ワルサルバ氏ノシニユス

羅列ス而テ其隆起縁即チ基礎ハ脈壁ニ附着シ其遊離縁即チ末端ハ脈心ニ放在ス而テ各瓣共ニ上面ノ後方即チ基礎ニ於テ此脈管擴張シ乃

チ淺灣一名小拗ヲ造為ス故各瓣直立シテ上

向スレバ脈壁ニ抵粘セヌ加之逆流ノ血液ハ瓣ノ後部即チ淺灣ニ受容シ其血勢ノ壓迫ヲ以テ

閉鎖ノ機能ヲ助成スルニ此四弁ノ構造ハ半月瓣ハ血管ヲ富有セル裡膜ノ重襞ヨリ造成

スル者ニシテ其質中ニ強剛ナル纖維組織アリ此組織各瓣共ニ其遊離縁ノ正中ニ於テ小粒コ

エントリキユリス、シ  
ユストル、

ガ<sup>ル</sup>ニ<sup>一</sup>氏<sup>ノ</sup>凝為ス此小粒鎖辦ノ時ニ各辦ヨ  
 結節ト云フヲ凝為ス此小粒鎖辦ノ時ニ各辦ヨ  
 リ會合シテ恰モ品字形ヲ呈シ以テ閉鎖ノ中点  
 ト為レリ各辦共ニ游離縁ノ兩端ト其小粒トノ  
 中間ニ於テ織微ナル新月様ノ切凹部アリ是レ  
 纖維組織ノ不足スルヨリ成レリ然レ氏鎖辦ノ  
 時ニ於テハ其切凹部互ニ對着シテ全ク血液ノ  
 漏洩スルヲ防禦ス蓋シ血液逆流ノ勢ハ特ニ辦  
 纖維ノ強剛部ヲ以テ抗拒スレハナリ  
 左室<sup>レ</sup>ト<sup>リ</sup>ク<sup>ト</sup>ル<sup>グ</sup>ン<sup>ハ</sup>圓錐形ニシテ其底面ハ心耳  
 ニ連接シ其頭角ハ心ノ尖端ヲ造成ス其丈ハ右

オステウム、ヘンシム、シ  
ニストリウム

ル<sup>ル</sup>フ<sup>ラ</sup>、ヒ<sup>キ</sup>ユ<sup>ス</sup>、ヒ<sup>タ</sup>  
リス

室ニ較レハ長ク而テ頗ル心ノ後部ヲ領ス其壁  
 ハ厚シテ殆ト右室ニ三倍ス故ニ横斷スレハ斷  
 口恰モ環狀ヲ呈セリ其内面ハ亦々無數ノ強剛  
 ナル筋柱<sup>カ</sup>ル<sup>子</sup>ヲ<sup>ナ</sup>ス<sup>ヲ</sup>具有ス其柱頗ル錯雜乱  
 布セリ而テ二個或ハ三個ノ乳頭筋<sup>ハ</sup>ビ<sup>ル</sup>ラ  
 ヲ具有ス亦頗ル剛強ナリ  
 左心耳室孔<sup>レ</sup>キ<sup>ユ</sup>ラ<sup>ト</sup>オ<sup>ル</sup>ハ<sup>リ</sup>キ<sup>ユ</sup>ロ<sup>グ</sup>ン<sup>ト</sup>ハ右室ノ  
 後部ニ在テ其内圍ニ一對ノ膜様皺襞ヲ具有ス  
 是レ即チ帽子辦<sup>ル</sup>ワ<sup>ラ</sup>ナ<sup>リ</sup>此辦ノ器械的功  
 用ニ至テハ所謂三尖辦ニ同シ只稍ヤ強剛ノ差

アルノミ、

此室孔ノ前右側ニ於テ、大動脈孔アリ、其内圍ニ、

半月瓣セルリユナヲ具有ス、其角ハ、肺動脈孔ノ

同名瓣ニ異ナラス、亦只々剛強ノ差アルノミ、

心胞心一各

心胞ペリカルハ、二層ノ纖維清膜囊ニシテ、即チ

心臓ヲ全裏ス、其形ハ、心ニ準シ、其色ハ、藍白ナリ、

而テ結締織ニ由テ、左右ハ側壁ノ胸膜、下方ハ横

隔ノ臑部ニ附着セリ、以下之ヲ辨説ス、

外エ纖維層エキステリタル、ハイハ、其造構ハ、纖維

ペリボール、  
カワプシユル、

ハイブロー、ペリカ  
ルジウム、

ペリカ、  
ルジウム

ペリカ、  
ルジウム

組織ノ錯綜、且ツ絞束シテ、多ク縦經ニ羅列シタ  
ル膜ナリ、其角ハ、強韌ニシテ、擴張展延ス可カラ  
ス、此層、心ノ底面ニ於テ、大血管ノ起根ヲ被覆シ、  
其管ノ外層ト連続ス、

内甲清膜層インステルナル、セハ、其造溝及ヒ編列

ハ、他ノ諸清膜ニ同シ、而テ心臓及ヒ大血管ノ起

根ヲ密裏シ、心ノ底面ヨリ轉シテ、纖維膜ノ内面

ニ翻展ス、

二層ノ腔間ハ、對向シタル滑沢面ニシテ、駁多ノ  
清液恒ニ滋潤ス、因テ心胞液ペリカル、ジアル、

ス蓋シ其清液ハ、心臟運動ノ便ニ供スル者ナリ、

動脈

動脈 リ ア リ テ ハ、二個ノ大幹及ヒ數支ヨリ造成セ

リ其一幹、即チ大動脈ハ、諸支ヲ細別シ、以テ血液

ヲ身体ノ諸部ニ輸送シテ、諸器ヲ給養ス、其一幹、

即チ肺動脈ハ、血液ヲ兩肺ニ輸送シテ、新鮮氣ヲ

吸收セシム、

大動脈

大動脈 ル ア オ ハ、動脈系ノ總幹ニシテ、血液ヲ全身

ニ賦與ス、其幹、心ノ左室ヨリ起リ、斜ニ背椎ノ右

ア、マキシム

側ナリ、左側ニ上リ、迴轉シテ漸次ニ下リ、腰椎ノ

第四片ニ達シ、分岐シテ二條ノ普通腸骨動脈ト

爲ル、其經過中、初部ヲ大動脈ト稱シ、下行部ハ

通渉ノ處ニ從テ、胸腔大動脈、腹部大動脈ト稱ス、

大動脈弓

大動脈弓 ア ア リ チ ヲ ス、心ヨリ起リ、稍ヤ右側ニ

傾テ、後方ニ向ヒ、斜ニ上行シテ、右肺動脈及ヒ左

氣管支ヲ越テ、左側ニ彎曲ス、而テ下テ、背椎第三

片ノ左側ニ達シ、胸腔大動脈ト爲ル、蓋シ其起初

ハ、肺動脈ノ起根、及ヒ右心耳ノ耳狀屬部ニテ被

ア、キニス、アナルタ

ハレリ、今其部ヲ露裸ニ見レハ、球状ヲ呈ス是レ所謂半月瓣後ノ小坳ナリ予ノ上行部ハ其後方ハ右肺動脈及ヒ靜脈、右側ハ上大靜脈、左側ハ肺動脈幹ト隣列ス、横行部ハ肺動脈分岐ノ地ニ位シ、而テ其上方ハ左無名靜脈、後方ハ氣管ノ分岐前面ハ胸骨ノ上部ト隣列ス、下行部ハ其右側ハ食道及ヒ胸管、左側及ヒ前面ハ左肺ノ根底ト隣列ス、予ノ右側ニ於テ屢歴然ト擴張シテ、恰モ動脈瘤ノ初起ニ似タルヲアリ、假令稀證タル氏決シテ病体ニ非ス、予ノ頂上ヨリ數條ノ大血管ヲ

生ニ頭部及ヒ上肢ヲ營養ス、而テ予ノ下行部ハ其内徑ヲ漸次ニ減狹ス、

大動脈予ノ分岐支

大動脈予ヨリ分岐スル所ノ諸支、及ヒ其列序ハ

即チ左ノ如シ、

右冠動脈、左冠動脈、無名動脈、右普通頸動脈、右

鎖骨下動脈、左普通頸動脈、左鎖骨下動脈是レナリ

蓋シ冠動脈ハ各側ニ在テ半月瓣ヲ直上部ヨリ

起リ、心ノ壁面ヲ營養ス、其他ノ三支ハ各並列シ

テ、予ノ頂上ヨリ起リ、頭部及ヒ上肢ニ循行シテ、

其部ヲ營養セリ、以下之ヲ辨説ス、

冠動脈

右冠動脈 アイト、コロナリ ハ、大動脈ノ右、半月辨

ノ直上部ヨリ起リ、横溝 右側ノ心耳ト、心

ニテ、後縦溝 両室ノ間ニ達シ、此溝ニ沿ヒ、下テ心

ノ尖端ニ進ミ、左冠動脈ト合吻シ、以テ心ノ右側、

及ヒ左室ノ後部ヲ營養ス、

左冠動脈 レフト、コロナリ ハ、大動脈ノ左側ヨリ

起リ、前方ニ向テ、肺動脈ト、左心耳ノ耳屬部トノ

間ヲ過キ、分岐シテ二枝ト為ル、其一ハ、前縦溝 両

アテリア、コロナリ  
ア、デキストラ

乙  
アテリア、コロナリ  
ア、シニストラ

アテリア、インテリナタ

間ニテ下テ、心ノ尖端ニ達シ、以テ右冠動脈ト合  
吻ス、其一ハ、横溝 左心耳ト、左室 ヲ循環シテ、心ノ  
後部ニ至リ、亦タ右冠動脈ト合吻ス、

無名動脈

無名動脈 アインテリミナタ ハ、弓頂ノ三支別中、第

一支ニシテ、頭頸及ヒ上肢ノ一側ヲ營養ス、故ニ

其功用、他ノ二支ト相通ス、其丈々、殆ト一「イン」チ

半ニシテ、其根ハ、即チ弓頂ヨリ起リ、氣管ノ前部

ト、左無名靜脈ノ後部トノ間ニ於テ、斜メニ右側

ニ上リ、右ノ胸鎖關節部ニ於テ、二支ニ分岐ス、其

一ハ右鎖骨下動脈ニシテ、一ハ右普通頸動脈ナリ或ル異變證ニ於テハ無名動脈ヨリ、左普通頸動脈支ヲ分出スルナリ、又屢他ノ二支ノ如ク、亦々固ヨリニ支ニシテ、即チ直ニ大動脈ヨリ起ルナリ、是レ無名動脈ニ代ル者ナリ、

普通頸動脈

右普通頸動脈 ライト、コンモリカハ、無名動脈ヨリ、分岐シタル一支ニメ、頸部ニ上リ、喉頭ノ上縁ニ達シ、又々分岐シテ、内外頸動脈ト爲レリ、

左普通頸動脈 ロフト、コンモリカハ、大動脈弓ヨリ、分岐シタル一支ニメ、頸部ニ上リ、喉頭ノ上縁ニ達シ、又々分岐シテ、内外頸動脈ト爲レリ、

アカロチス、コンモリカハ、無名動脈ニシテ、即チ直ニ大動脈ヨリ起ルナリ、是レ無名動脈ニ代ル者ナリ、

アカロチス、コンモリカハ、無名動脈ニシテ、即チ直ニ大動脈ヨリ起ルナリ、是レ無名動脈ニ代ル者ナリ、

アカロチス、コンモリカハ、無名動脈ニシテ、即チ直ニ大動脈ヨリ起ルナリ、是レ無名動脈ニ代ル者ナリ、

リ起リ、直ニ無名動脈ニ並列シ、而テ相比スレバ、稍長シテ深ク、且ツ直線ニ位ス、然レ其支別ノ景况及ヒ所在ニ至テハ、殆ト相似タリ、  
 普通頸動脈 コンモリカハ、頸部ニ上テ、頸椎前部ノ筋上ニ安置ス、其内側ニ於テハ、気管、喉頭、及ヒ食道アリ、外側ニ於テハ、内頸静脈アリテ、共ニ其鞘ヲ同シ、尙オ其中間ニ、肺胃神経ヲ挿挾ス、後方ニ於テハ、大交感神経アリ、前面ニ於テハ、肩胛骨筋ト交叉シテ、胸骨乳頭筋ニテ被ハル此動脈ハ、支別セシテ、喉頭ノ上縁ニ達シ、初テ二

支ニ分岐ス、一ハ即チ外頸動脈ニシテ、一ハ即チ内頸動脈ナリ、

外頸動脈

外頸動脈 エキス、テ、ル、ナ、リ、ル、カ、ハ、各側ニ在テ、喉

頭ノ上縁ヨリ起リ、殆ト直線ニ上行シテ、下顎頸

ト聴道ノ間ニ達シ、分岐シテ、頰顛動脈及ヒ内頤

動脈ト為ル其位置ハ、内頸動脈ノ前及ヒ内側ニ

於テ、咽頭ト交叉ス其起根ハ、頰莖、頰皮筋、廣頰筋及

ヒ外皮ニテ被ハレ、進テ錐頰舌骨筋、二腹筋、及ヒ

舌下神經ト交叉シ、次ニ耳下腺ノ實質ニ竄入シ、

甲、エキス、テ、ル、ナ、リ、ル、カ、ハ、各側ニ在テ、喉

顔面神經ト交叉ス此脈ハ、腦及ヒ眼窩内ノ容積

按スルニ、眼球、及ヒ筋ヲ云フカ、ヲ除クノ他ハ、頭顛中ニ於テ、處

トメ栄養セサルハ無シ、

外頸動脈ヨリ、分岐スル所ノ諸支、及ヒ其列序ハ、

即チ左ノ如シ、

上甲狀動脈、舌動脈、咽頭動脈、顔面動脈、枕骨動脈、

耳後動脈、筋肉支、耳下腺支、顛顛動脈、内頤動脈、是

ナリ、以下之ヲ辨説ス、

第一、甲上甲狀動脈支 エ、ユ、ペ、リ、オ、ル、チ、リ、ロ、ハ、外頸動

脈起根、直ニ上前部ヨリ起リ、斜ニ前内方ニ向

甲、エキス、テ、ル、ナ、リ、ル、カ、ハ、各側ニ在テ、喉

甲 ラニスハイライド

乙 ラニス、モスキユラリス

丙 ラニス、ラリンキ

ヒ、下テ甲状腺ニ達シ、而テ他ノ此部ヲ栄養スル  
動脈ト合吻ス此脈通過ノ間肩胛舌骨筋ト交叉  
ス其分出ノ諸支ハ、**舌骨支**、**筋肉支**、**喉頭支**、是ナリ、  
**天** **舌骨支** ハ、レインチド、ハ、小支ニシテ、舌骨ノ側  
面ニ循リ、即チ其部ヲ栄養ス、蓋シ此支ハ、屢、舌  
動脈ヨリ来ル丁アリ、

**地** **筋肉支** ハ、モスキユラール、ハ、胸骨乳頭筋及ヒ舌  
骨、喉頭ノ舉沈筋等ニ分布ス、

**人** **喉頭支** ハ、ラリンギユアール、ハ、甲状舌骨膜ヲ穿過  
シテ、喉頭ノ小筋及ヒ粘膜ヲ栄養ス、

イ テリ、リキユアリス

**第二** **舌動脈** ハ、リンギユアール、ハ、第一支ヨリモ、巨大  
ニシテ、直チニ其上ヨリ起リ、舌骨ノ側面ト一線  
ヲ為シ、其大角ノ上ヲ過キ、舌舌骨筋ト、咽頭中  
収閉筋ノ間ニ上行シテ、舌ノ下部ニ達シ、進テ舌  
端ニ至ル其分出ノ諸支ハ、**舌背支**、**舌下支**、**蝦蟇支**、  
是ナリ、

乙 アドルサ、リンガ

丙 アーテリ、シラリンガ

**天** **舌背支** ハ、ドルサル、アル、テリ、ハ、舌根ヲ栄養ス  
此支屢、數條ノ小血管ヲ以テ代ル丁アリ、

**地** **舌下支** ハ、シユブリンギユアール、ハ、口床筋、  
腮舌骨筋、  
ト、舌下腺ノ間ヲ過キ、諸支ヲ分出シテ、即チ其

甲アテリ、ラニーン

舌筋、ヲ栄養ス、

舌骨筋ト、腮舌骨筋ノ間ヲ過キ、舌端ニ達ス、而

テ其經過、頗ル迂曲ナリ此支、舌繫帶ノ兩側ニ

於テハ、唯々粘膜ニテ被ハル、ノミ、

第三咽頭動脈

アハ、纖維長ナル血管ニ

シテ、外頸動脈ノ内側ヨリ起リ、第二支

ニ、殆ト水平ヲ為シテ、頸部ニ深入シ、咽頭面ニ沿

ヒ、頭顱ノ底面ニ上ル、故ニ常ニ畧ホ看見ス可カ

ラス其經過中ニ、數支ヲ分出シテ、咽頭軟口蓋及

乙イテリ、パリンジー

アハ、マキシニ  
又エキステルナ

ト同ク、且ツ其稍ヤ上ヨリ起リ、上前方ニ向ヒ、舌  
下腺ヲ穿通シ、下腭ノ基礎ヲ廻リ、咬筋前ニ至リ、  
顔面ヲ上リ、迂曲シテ口角ニ至リ、而テ上行シテ  
内背ニ達ス其經過中、下腭下ニ於テハ、錐頰骨  
筋ト二腹筋ノ下面ニ行キ、下腭底面ニ於テハ、皮

第四顔面動脈

アハ、キテリル、ハ、其徑度、殆ト舌動脈

ト同ク、且ツ其稍ヤ上ヨリ起リ、上前方ニ向ヒ、舌

下腺ヲ穿通シ、下腭ノ基礎ヲ廻リ、咬筋前ニ至リ、

顔面ヲ上リ、迂曲シテ口角ニ至リ、而テ上行シテ

内背ニ達ス其經過中、下腭下ニ於テハ、錐頰骨

筋ト二腹筋ノ下面ニ行キ、下腭底面ニ於テハ、皮

ア、パ、リ、ゴ、パ、ラ、チ、ナ

乙、ア、テ、リ、ド、シ、ラ、リ、ス

甲、ラ、ミ、ナ、グ、ラ、ン、デ、ユ、ラ  
ー、リ、ス

乙、ア、テ、リ、シ、レ、ユ、フ、メ  
シ、タ、リ、ス

丙、ア、コ、ロ、ナ、リ、ア、イ、ン  
ヘ、リ、チ、ル

層及ヒ廣頸筋ニテ被ハレ、口角ニ於テハ、口角沈

筋及ヒ衡骨筋ニテ被ハル此脈ノ主要支別ハ、下

口蓋支、扁桃支、下脛支、腮下支、下冠狀支、上冠狀支、

筋肉支、鼻側支、眼角支是ナリ、

イ、下口蓋支、テ、イン、ハ、リ、ヲ、ル、バ、ラ、ハ、咽頭ノ側方

ヲ上リ、諸支ヲ分出シテ、内翼狀筋、錐穎諸筋、扁

桃腺、エ、ウ、ス、タ、キ、氏、管、軟、口、蓋、ノ、諸、筋、及、ヒ、粘、膜

等ニ循行ス此支時トシテ、咽頭動脈ノ一支別

トナルナリ、

ロ、扁桃支、ア、ト、シ、ラ、リ、ル、ハ、咽頭ノ側面ヲ上リ、

口蓋及ヒ扁桃腺ニ分布ス、

ハ、下脛支、レ、マ、キ、チ、ス、ハ、頗ル小血管支ニ

シテ、下脛腺ヲ栄養ス、

ニ、腮下支、ル、ア、リ、タ、リ、ハ、以、上、ノ、三、支、ニ、比、ス

レ、ハ、稍大ニシテ、前方ニ向ヒ、二腹筋ト、口床筋

トノ間ヲ過キ、腮ヲ循リ、下冠狀動脈ト合吻ス

其經過中、即チ下脛腺、腮部ノ諸筋及ヒ腮ヲ栄

養ス、

ホ、下冠狀支、ナ、リ、ハ、リ、ヲ、ル、コ、ロ、ハ、顔面動脈ノ

口角部ヨリ起リ、前上方ニ向ヒ、口角沈筋ノ下

甲 アコナリソペリナル

面ヲ過キ、下唇輪狀筋口圍ニ竄入シ、迂曲シテ、

他側ノ同名動脈ト合吻ス、

へ上冠狀支ソペリナルコロナハ、前支ニ相接

シテ起リ、迂曲シテ、上唇ヲ循環シ、他側ノ同名支

ト合吻シ、以テ上唇ヲ營養ス別ニ一支ヲ生シ

テ、鼻中隔ヲ營養ス、

ト筋肉支モスキュラールハ、數條ノ小支ニシテ、

其數一定セス、蓋シ口角沈筋、咬筋、頰筋、衡骨筋、

其他諸筋ヲ營養セリ、

チ鼻側支ラテラール、アール、ナリナルハ、内方ニ向ヒ、鼻側

丙 アナサリスラテラリス

乙 ラシ、モスキュラール

チ營養ス此支屢無數ノ小支ヲ以テ代ルコトアリ、

リ、

リ眼角支アインギュラールハ、顔面動脈ノ末支ニ

シテ、眼動脈ノ諸支ト合吻ス、

第五枕骨動脈アキビタールハ、外頸動脈ノ后部

ヨリ起リ、其起根ハ、始ト第四支ニ同シ、而テ后方

ニ向ヒ、乳頭部ニ附着スル衆筋ノ下而ヲ過キ、夾

板筋ト錯綜筋ノ間ヲ經ヘ、僧帽筋ノ枕骨附着部

ヲ穿テ、上テ枕骨部ノ皮下ニ達シ、分岐シテ、數支

ト爲リ、以テ耳后動脈及ヒ顳顬動脈ト合吻ス此

甲 アアンキユラリス

乙 アテリア、チキヒタリス

甲 ラミ、モスキユラリス

脉、經過中ニ、三支ヲ分出ス、即チ「**筋肉支**」「**降頭支**」「**腦膜支**」是ナリ、モスキユラリス

乙 アセルヒカル、テッセン、ズエ

「**天**甲**筋肉支**」モスキユラリスハ、胸骨乳頭筋、二腹筋、及ヒ其他ノ諸筋ニ蔓布ス、

丙 アイテリア、メニシニア

「**地降頭支**」デッセン、カル、アール、テリルハ、頭ノ后部ヲ下リ、細別シテ數支ト為リ、錯綜筋、夾板筋、及ヒ其他ノ諸筋ヲ營養ス、

丁 ア、オリキユラリス、ボステリナル

「**人腦膜支**」メニシニア、ル、ブレンドンチハ、頰ル小支ニシテ、上テ頭孔ヲ過キ、厚腦膜ニ分布ス、

「**第六耳後動脈**」ボステリナル、キユラリスハ、小支ニシ

甲 ラミ、モスキユラリス

テ、第五支ノ稍ヤ上ヨリ起リ、耳下腺ノ下部ト乳頭部ノ間ヲ過キ、頭側ニ上テ、耳后ニ循リ、數支ニ分岐シテ、耳后ヲ營養シ、而テ枕骨動脈ト合吻ス、此脉、經過中ニ、最要ナル一、小支ヲ分出セリ、是即チ「**錐額乳頭動脈**」イスタ、アイロ、マストニシテ、同名孔ニ入り、上テ鼓室、耳竅内容、及ヒ乳頭竇ヲ營養ス、

「**第七**甲**筋肉支**」モスキユラリスハ、外頭動脈ノ分支ニシテ、其位置大小、常ニ同シカラス、蓋シ胸骨乳頭筋、咬筋、及ヒ翼狀筋等ヲ栄養ス、

「**第八**乙**耳下腺支**」パンチット、グハハ、小支ニシテ、外頭動

乙 ラミ、パンチット

甲 アーテリヤ、テムホリス

脈其腺ヲ通過スル時ニ分出シタル者ナリ  
第九顳顬動脈アテンテリヤハ、外頸動脈ノ顯然

タル末梢ニシテ、耳前ニ於テ始リ、耳下腺ヲ穿透

シ、顳顬ニ上リ、外皮及顳顬筋莖ノ間ニ占地ス衡

骨ノ稍上部ニ於テ、二支ニ分岐シ、頭側ノ皮下ニ

蔓布ス此脈ノ分支及ヒ末梢ハ、横行顔面支耳前

支、上眼窩支、中顳顬支、前顳顬支、后顳顬支、是ナリ

乙 ア、タランスヴェルサ、ハキーエー

イ横行顔面支アタランスヴェルサ、ハキハ、耳下腺

内ニ於テ、顳顬動脈ヨリ起リ、咬筋ヲ横行シテ、

衡骨ト、耳下腺管マテノノ間ヲ過キ、頰上ニ達

甲 ア、オーリキユラリス、アンテリヤル

シ、耳下腺、咬筋、眼瞼輪狀筋及ヒ其他ノ諸筋ヲ

栄養シ、眼動脈、顔面動脈ノ諸支ト合吻ス蓋シ

此支ハ、屢、數條ノ小支ヲ以テ代ルヲアリ、

口耳前支アンテリヤル、アハ、數條ノ小支

ニシテ、耳前及ヒ聽道ニ分布ス、

乙 ア、シユプラ、タルビタリス

ハ上眼窩支シユプラ、タルハ、衡骨上ヨリ起

リ、上眼窩縁ニ上リ、眼動脈、及ヒ前顳顬動脈ト

合吻ス、

丙 ア、テムホリス、メシア

ニ中顳顬支ミッドアル、テンハ、顳顬筋莖ヲ

穿行シ、顳顬筋ニ蔓布ス、

甲 アテムホリス、アテリス

角音訓蒙

卷之一

ホ前顳顬支 ラア  
ンルテ  
アリヲ  
ルテン  
ポハ 顳顬動脈  
末梢ノ一支ニシテ、前上方ニ循リ、顳顬及ヒ額  
ニ至リ、分岐シテ、數條ノ小支ト爲リ、頭皮及ヒ  
其部ノ諸筋ヲ榮養ス、而テ眼動脈、右顳顬動脈  
ノ諸支ト合吻ス、

乙 アテムホリス、ホリス

後顳顬支 ホス  
テリオ  
ル、テ  
ンハ 前支ヨリモ、  
稍ヤ大ニシテ、頭側ヲ上后方ニ循リ、分岐シテ、  
數條ノ小支ト爲リ、前顳顬動脈、耳右動脈、枕骨  
動脈ノ諸支ト合吻ス、

丙 アマキシテ、アリス、マキ

第十内脞動脈 シイ  
ランテ  
ルナ  
ール、  
マキ  
ハ 外頸動脈

甲 アテムホリス、アテム

ノ大分支ニシテ、下脞頸ノ后部ヲ過キ、横行シテ  
前方ニ向ヒ、内外翼狀筋ノ間ヲ過キ、稍ヤ上テ、  
又々前内方ニ向ヒ、翼狀脞窩ノ上部ヲ循リ、分岐  
シテ、二支ト爲ル、其一、口蓋下行支ニシテ、其一  
ハ、胡蝶口蓋支ナリ、此脈ノ分支及ヒ末梢分岐ハ、  
鼓室動脈、大脳膜支、下脞支、筋肉支、上脞支、下眼窩  
支、口蓋下行支、胡蝶口蓋支是ナリ、

子鼓室動脈 ア  
ンテ  
パ  
ニ  
ック  
ハ 小支ニシテ、内脞動

脈起根ノ近傍ヨリ起リ、下脞關節ノ后部ニ上  
リ、淺窩裂間ヲ穿過シテ、鼓室ニ蔓布ス、

解列川

卷之一

二十一

アメニガア、マクナ

角音言家 卷之十一

丑 大脳膜支 アグルル、アト、メテリンジハ、前支ノ近傍ヨリ起リ、上行シテ蝴蝶骨ノ棘孔ヲ穿過シ、頭腔底ノ中窩ニ入ル、而後チ前外方ニ向ヒ、厚脳膜ト、顛顛骨ノ間ニ彎曲シ、分岐シテ、二支ト爲ル此支ノ上行シテ、厚脳膜ト、顛顛骨ノ間ニ分布スルヤ、其形チ、樹枝ニ髣髴タリ、是所謂顛顛骨内面ノ樹枝形壓痕ヲ爲スナリ、而、厚脳膜及ヒ頭蓋ヲ榮養ス此支、經過中ニ諸支ヲ分出シテ、口蓋拳筋及ヒ張筋等ニ賦與シ、又夕三枝神經ノ半月狀節ニ賦與ス、

甲 アマキニラリス、オハ、  
ア、デンタリス、イン  
ヘリオル

乙 ラ、アルヘラリス

寅 小脳膜支 アス、ヒール、アル、メニンジハ、長圓孔ヲ穿テ、頭顱ニ入り、中窩ノ厚脳膜ヲ榮養ス此支、屢前支ノ分支ナル丁アリ、

卯 下腭支 ライ、ン、ハ、リ、オ、ル、マ、キ、シ、ハ、内、腭、動、脈、ノ、一、支、ニ、シ、テ、腦、膜、支、ニ、相、對、シ、テ、起、リ、下、テ、下、齒、神、經、ト、伴、行、シ、下、腭、齒、管、ニ、入、ル、此、管、内、ニ、通、過、ス、ル、間、ニ、五、個、ノ、齒、動、脈、ア、デ、ン、タ、リ、ル、ヲ、分、出、シ、以テ諸齒ニ賦與ス、而テ腮孔ヲ出テ、腮部ニ於テ、腮下支及ヒ下冠狀支ト合吻ス此脈、將ニ齒管ニ入ラントスル片ニ、分出シタル一支、齧齒

解 卷之十一 三二

ア、モスキュラーリス

線ニ走リ、以テ齒齦及ヒ口床筋ヲ栄養ス、  
辰筋<sup>甲</sup>肌肉支<sup>ルモスキュラチハ、二個ノ翼状筋ノ間ニ</sup>  
在リ、其數六條ナリ、尋常、翼状筋ニ循ル者二支、  
顚顚筋ニ循ル者二支、他ノ一支ハ咬筋、其殘餘  
ノ一支ハ、頰筋ニ循ルナリ、

乙、マキレリス、ソペリリス

己<sup>乙</sup>上腭支<sup>ラソペリ、アル、マキシハ、内腭動脈ノ翼</sup>  
状筋ノ間ヲ出ル代ニ、分与セシ一支ニシテ、下  
テ上腭骨ノ結節ニ至リ、數支ヲ分出シテ、齒齦  
ニ賦與ス、其他ニ、後齒支<sup>ポス、テリ、アル、デ</sup>  
分出ス、此分支、上腭ノ小孔ニ穿入シテ、上腭洞

甲、スインフラ、フルグニリス

及ヒ齶齒ヲ栄養ス、

午<sup>甲</sup>下眼窩支<sup>イル、アラ、チル、ビタハ、前支ニ接シ</sup>  
テ起リ、下眼窩管ニ入テ、顔面ニ蔓布ス、此管内

ニ通過スル間ニ、前齒支<sup>タア、シテ、アリ、アル、デ、ン</sup>  
分出シテ、前齒ニ賦与ス、其他ニ、小支ヲ分出シ

テ、眼ノ下直筋、及ヒ斜筋ニ賦与ス、顔面ニ於テ

又數支ヲ分出シテ、下眼脰、及ヒ上唇ニ賦与シ、  
而テ顔面動脈、及ヒ眼動脈ノ諸支ト合吻ス、

未<sup>乙</sup>口蓋下行支<sup>テ、ス、セ、ン、ア、ン、テ、ン、パ、ラ、ハ、内腭動脈</sup>  
末梢ノ一支ニシテ、後口蓋管ヲ過キ、下テ軟硬

乙、ス、バ、ラ、チ、ン、ソ、ペ、リ、チ、ル、  
ア、テ、リ、ウ、バ、ラ、チ、ン、

アチナリスホステリ

両口蓋ニ蔓布ス此脈ニ支ヲ分出セリ其一ハ  
 硬口蓋ノ前面ニ至リテ前口蓋孔ヲ穿登シテ  
 鼻ノ諸動脈ト合吻ス他ノ一支ハ此脈起根ノ  
 邊ヨリ起リ翼狀管ヲ廻通シテ咽頭ニ達ス  
 申胡蝶口蓋支申スヘノハ内腭動脈ノ  
 第二支ニシテ胡蝶口蓋孔ヲ穿テ鼻腔ニ入り  
 而テ一小支ヲ分出シ咽頭ノ上部ニ右方ニ向  
 テ翼狀口蓋孔ヲ過キ又々分岐シテ二枝ト爲  
 ル其一支ハ鼻側壁鼻床及ヒ腭洞ニ分布シ他  
 ノ一支ハ下テ鼻中隔ヲ循リ前口蓋孔ヲ穿下

アカロチンテル

シテ口蓋下行支ノ分支ト合吻ス

内頸動脈

内頸動脈

インテルナルカハ脳及ヒ眼具ヲ榮

養スル者ニシテ普通頸動脈ノ第二分支ナリ殆

ト直線ニ上リ顙顚骨ノ頸動脈孔ニ入り裂孔ヲ

超テ頭腔ニ入り前方ニ向ヒ胡蝶骨ノ体側ニ沿

ヒ前床突起ニ達シ轉シテ上方ニ向ヒ脳ノ前中

兩葉間ノ溝ヲ循リ分岐シテ前中脳動脈ト爲ル

此脈頸部ニ在テハ頸椎前筋上ニ安置シテ一七

支別スルヲナシ而テ其内側ニハ咽頭前面ニハ

外頭動脈、外後方ニハ内頭靜脈、及ヒ第九對以下ノ腦神經アリ、胡蝶骨體側ニ在テハ、蜂窩竇ノ下壁内ニ埋没ス、前床突起ニ在テハ、厚腦膜ヲ穿テ、  
腦髓ニ達ス、  
内頭動脈ヨリ、分岐スル所ノ諸支、及ヒ其列序ハ、  
即チ左ノ如シ、  
眼動脈、後結合支、脈叢支、前腦支、中腦支、是ナリ、以  
下之ヲ辨説ス、

第一 眼動脈 チフザルニツキ、ハ、前床突起ノ地ニ在

テ、内頭動脈ヨリ起リ、直ニ厚腦膜ニ入り、視神經

アテクリマリス

孔ヲ穿テ、視神經ノ外側ヲ過キ、眼窩内ニ入り、迂  
曲シテ、視神經ノ上、即チ眼窩ノ内壁ニ至リ、分岐  
シテ、二支ト為ル、其一ハ額支ニシテ、他ハ鼻支ナ  
リ、此動脈ノ分支、及ヒ末梢分岐ハ、即チ淚腺支、網  
膜中心動脈、長毛樣支、短毛樣支、筋肉支、上眼窩支、  
後篩骨支、前篩骨支、眼臉支、額支、鼻支、是ナリ、

以淚腺支 ラクリマリス、ハ、眼窩ノ外壁ニ沿ヒ、

淚腺ニ達シ、殊ニ其部ニ於テ分布ス、或ル他

支ハ、近隣ノ諸筋ヲ栄養シ、或ハ顴骨孔ヲ過キ

テ、顏面動脈、及ヒ内膊動脈ノ支別ト合吻シ、或

甲アセントラリスレチチ

乙アセリアレスボスオカガ

ハ、剛膜ヲ穿テ、毛様動脈アトリアリト為ル者アリ、又々或ハ、外背ヨリ出テ、眼瞼ニ蔓布セリ

呂網膜中心動脈セントラルトテリ、ハ、眼神經ニ竄入シテ、眼球ニ入り、網膜ノ内層ニ分布ス

此支、胎兒ニ在テハ、又々分出シテ、硝子液ノ軸ヲ穿過シ、硝子囊ニ達スルアリ、

波長毛様支ロアングテリ、ハ、其數ニ條ニシテ、眼ノ各側ニ在リ、共ニ眼球ノ後部ヲ穿テ、前方ニ進ミ、脈絡膜ト剛膜ノ間ニ走り、虹彩ニ達シテ、其部ニ分布ス、

甲アボスガブレバス

乙アモスキユラリス

丙アセリアレスアテリリス

丁アセリアレスアテリリス

仁短毛様支シヨルトテリ、ハ、其數三條、或ハ四條ニシテ、剛膜ノ後部ヲ穿テ、脈絡膜ニ分布ス

保筋肉支アモスキユラリスハ、眼球諸筋ヲ栄養スル者ニシテ、別ニ前毛様支アアンテリヲルテリ

チ分出セリ、其分出支ハ、五個乃至十個ノ小支ヲシテ、剛膜ノ前部ヲ穿テ、虹彩ニ達ス、

邊上眼窩支シユプテリ、ハ、眼窩ノ上壁ニ沿ヒ、上眼窩孔ヲ出テ、皺眉筋、額筋、及ヒ皮膚ニ分布ス、

甲 ア、エトモイダレス、ボ  
ステリナル

乙 ア、エトモイダレス、ア  
テリナル

丙 ア、エトモイダレス、ア  
ステリナル

丁 ア、バルブレラレス

角部言

卷之

登後篩骨支

イボス、テリナル、アル、エトモイ  
ハ、後篩骨孔

ニ穿入シテ、篩骨後房叢及ヒ厚脳膜ニ分布ス

知前篩骨支

イア、エトモイ、アル、エトモイ、ハ、前篩骨孔

ニ穿入シ、分岐シテ、厚脳膜ニ、脳膜支

チ、賦與シ、而テ他ノ一支、即チ前鼻支

アル、ナサール、ハ、篩骨板ノ前孔ヲ通過シ、鼻内

ニ入りテ、鼻ノ前部、篩骨前房叢及ヒ洞等ニ分

布ス、

里眼臉支

ア、バルブレラレス、ハ、眼動脈ノ支別ニ

シテ、内眦ヨリ起リ、分岐シテ、各臉ニ蔓布ス、

甲 ア、バルブレラレス

奴額支

ア、フロンタール、ハ、眼動脈ノ末梢ニシテ、

内眦ニ當テ、眼窩ヲ出テ、額ニ上リ、筋下ヲ過キ、

而テ其部ノ諸筋及ヒ皮膚ニ分布ス、

留鼻支

イ、ナサール、ハ、眼動脈ノ一支ニシテ、内

眼、眼瞼韌帯ノ上ニ當テ、眼窩ヨリ鼻梁ニ下リ、眼

眦動脈ト合吻ス、

第二後結合支

イ、ボス、テリナル、アル、コムニニハ、内頸動

脈ノ小支ニシテ、後方ニ向ヒ、漏斗ノ側方ニ進ミ、

後脳動脈ト結合ス、

第三脈叢支

イ、コロイド、ハ、内頸動脈ノ最小ナル

解剖

卷之

二十七

一支ニシテ、腦脚ノ外側ニ上リ、側室ノ下角ニ入  
リ、脈叢ニ分布ス、

第四前腦支

ラアンルテアリタル、セラレバハ、内頸動脈末

梢ノ一支ニシテ、大脳ノ縦溝ニ上リ、膀胱体ノ前

面ニ彎曲シテ、後方ニ向ヒ、脳ノ半圓ト、膀胱体ノ

間ヲ過キ、數支ヲ分与シテ、後腦動脈ト合吻ス、此

脈ノ起根ノ前部ニ於テ

前結合動脈

アンテリオル  
コムニニカ

テリ、アト稱スル者アリ、其幹、レイン乃至二

レインニシテ、縦溝ニ横居シ、以テ他側ノ同名脈

管ト結合ス、

アセレブリアンテリナル

アコムニニユカンス、ア  
ンテリナル

甲アホザルシルビー

第五中腦膜支

ミツルアルヒテリ、ラハ、内頸動脈ノ最

大支ニシテ、前中兩腦間ノ横溝ク、此溝ニ上リ、

分岐シテ二支ト為リ、即チ中腦ヲ榮養ス、

鎖骨下動脈

右鎖骨下動脈

ライト、シュブクラビハ、無名動脈ヨ

リ起リ、外方一向ヒ、前中兩不齊筋ノ間ニ彎曲シ、

進テ第一肋ヲ越ヘ、乃チ腋下動脈ト為ル、此脈、右

鎖胸關節部ニ於テ、其前面ハ、内頸鎖骨下兩靜

脈ノ湊合アリ、而テ又タ肺胃神經ト交叉ス、上右

方ニハ、腋下神經叢、及ヒ大交感神經アリ、

乙アシテ、デキス、ア

左鎖骨下動脈レフ、ア、シ、ブ、ク、ラ、ビハ、大動脈弓頂  
 ニ駢列ニタル、第三支ニシテ、即チ其弓ヨリ直チ  
 深処ニ位ス其直線ニ上行スルノ部ハ、殆ト無名  
 動脈ノ全徑ニ均シ其他ノ經過ニ至テハ、右側ノ  
 者ニ異ナルヲナシ此脈、上行部ノ右側ハ、右普通  
 頸動脈及ヒ氣管前面ハ、肺胃神經ト關涉ス、  
 稀異ノ證タリシカ、無名動脈、分岐シテ起ルヲア  
 リ、然ル片ハ、右鎖骨下動脈ハ、衆支ノ末位ニ在テ  
 直チニ大動脈弓ヨリ起リ、左方ヨリ右方ニ向ヒ、

ボステリオル、セレブラ  
 ール、アーテリ

食道ト頸椎ノ間ヲ過キ、而テ漸次ニ常式ニ歸セ  
 リ此動脈、其上行部ニ於テハ、一モ支別スルヲナ  
 シ、然レモ、彎曲部ニ在テハ、諸支ヲ分岐スルヲ右  
 側ノ者ノ如シ、即チ脊推動脈、甲状軸、下甲状支、上  
 肩胛支、横頸支、上行頸支、内乳支、上肋間支是ナリ、  
 以下之ヲ辨説ス、

第一 脊推動脈ル、ヴェル、テ、ブ、ラ、ハ、鎖骨下動脈ノ最

大支ニシテ、普通頸動脈ノ右部ヲ過キ、頸椎第六  
 片ノ横突起孔ヲ穿チ、上行シテ、他椎ノ同名孔ヲ  
 過キ、頸椎初節ノ上關節突起ニ達シ、後方ニ循テ

枕骨孔ヲ過キ、頭腔ニ入り、後脳膜ヲ穿テ、延髄ノ側面ニ沿ヒ、上前方ニ進ミ、グイロリ橋ノ下縁ニ達シ、左右相共ニ結合シテ、基礎動脈ト為ル、此脈ハ、間、大動脈ヨリ起ルヲアリ、斯ク異変スルヲハ、殊ニ左側ニ於テ多シトス、此脈ノ諸支ハ、**筋肉支**、**脊髓支**、**後脳膜支**、**後脊髓支**、**前脊髓支**、**下小脳動脈**是ナリ、

ア、モスキュラリス

**A** 筋肉支

モスキュラリス、ハ、數條ノ小支ニシテ、

頸部ニ在リ、即チ脊椎動脈ヨリ起リ、頸椎ノ横突起ニ附着シタル、諸筋ニ散布ス

ア、パイナリス

**B** 脊髓支

ブレパインナリス、モ、亦々小支ニシテ、頸部ニ在リ、即チ脊椎動脈ヨリ起リ、椎間孔ヲ穿

過シテ、脊髓及ヒ其被膜ニ散布ス、

乙、ア、ミンヂス、ボス、テリオル

**C** 後脳膜支

ヂポステリオル、ア、リ、テ、リ、ハ、頭椎ノ第一

一、片ト、枕骨孔ノ間ヨリ起リ、枕骨孔ヲ穿通シテ、小脳窩ノ厚脳膜ニ入ル、

丙、ア、ス、パイナリス、ボス、テリオル

**D** 後脊髓支

ナポステリオル、ア、リ、ス、パイナリス、ハ、脊椎動脈

ノ頭腔ニ入テ分布スル、第一支ニシテ、脊椎動脈ノ後面ニ下リ、徃々脊椎ノ諸支ノB者ト合吻ス、

丁、ア、ス、パイナリス、ボス、テリオル

**E** 下小脳支

ルイランヘル、ア、リ、テ、セ、レ、ハ、尋常ニ支

ニシテ、延髓ノ上部ヲ纏繞シ、小腦ノ下面ニ蔓布ス、

乙 アテリオル、メジアン、アテリ

〔E〕<sup>甲</sup>前脊髓支 ナンテアリオル、スパイハ、脊椎動脈ノ最末ノ一支ニシテ、延髓ノ前面ニ於テ、他側ノ同名支ト連結シ、乃チ一幹ト爲リ、迂曲シテ、

脊髓ノ前面ニ下行シ、其部ニ蔓布ス、

乙 アバシラリス

基礎動脈 アバシラリス、ハ、左右脊椎動脈ノ湊合ヨリ成ル者ニシテ、

「グイロリ」橋ノ正中溝ニ位シ、而テ數支ヲ分出ス、其最要ノ支ハ、各相對セリ、即チ

内聽道支、上小腦支、後腦支是ナリ、

甲 アガシチ、アインニテ

〔天〕<sup>甲</sup>内聽道支 トインテアルナール、オース、ハ、小支ニシテ、聽神經ト伴行シ、共ニ内聽道ニ入テ、迷路

ニ散布ス、

乙 アセベル、ゾリオル

〔地〕<sup>乙</sup>上小腦支 ラソベル、アアル、セレベル、ハ、橋ノ前部ニ於テ、外方ニ向ヒ、小腦ノ上面ニ散布ス、

〔人〕<sup>丙</sup>後腦支 ラボスル、アリ、セル、ハ、基礎動脈ノ前分岐ニシテ、左右ニ離隔シ、各内頸動脈ノ後結合支ヲ容受シテ、後外方ニ向ヒ、腦脚ヲ廻リ、大

腦后葉ノ下面ニ達シ、細分シテ、後葉ニ蔓布シ、

以テ其部ヲ栄養シ、而テ他ノ腦動脈ト合吻ス

此脉經過ノ初ハ膀胱体後部ノ下ニ於テ小支ヲ  
 分出セリ之ヲ後脉絡叢支ト稱ス薄腦膜ノ間蓋  
 及ヒ脉絡叢ニ循ル、  
 前腦動脈ハ前結合支ニ由テ互ニ結合シ後腦動  
 脈ト内頸動脈ハ後結合支ニ由テ連結シ以テ腦  
 底粘液窩ノ周圍ニ於テ綾々タル動脈輪環ヲ為  
 ス之ヲ<sup>甲</sup>ツェルリス氏環ス<sup>乙</sup>ツェルクルスヲト稱ス此ニ由  
 テ内頸動脈、脊椎動脈、互ニ相通ス故ニ其一管閉  
 塞スハ周腦ノ血液運行ニ至テハ更ニ障碍アル  
 了ナシ

全  
 甲  
 シルリススアテリオ  
 シュス、スルリシ  
 アイテリルハキカラン

下占キユスチロセカ

第二 甲<sup>甲</sup>狀軸<sup>ト</sup>、アキス<sup>ハ</sup>短且ツ大ナル一管ニシ  
 テ前不齊筋ノ近部ニ在リ、鎖骨下動脈ノ前部ヨ  
 リ起リ直チニ分歧シテ、四支ト爲ル、即チ下甲狀  
 支、上肩胛支、横頸支、及ヒ上行頸支是レナリ、間又  
 又其他ニ支出スル了アリ、又或ハ諸支皆ナ直ニ  
 鎖骨下動脈ヨリ起ル了アリ、  
 第三 下甲狀動脈<sup>ロ</sup>、インド<sup>ハ</sup>ア<sup>リ</sup>オ<sup>ル</sup>、<sup>テ</sup>イ<sup>ハ</sup>斜ニ普通  
 頸動脈ノ後方ニ上リ、甲狀腺ノ下部ニ達シテ分  
 布ス、又夕別ニ數支ヲ分出シテ、氣管、喉頭、及ヒ食  
 道等ニ循ル此支、往々上甲狀動脈ト合吻ス、

第四 上肩胛支 ソ、グ、ア、ス、カ、ヒ、ユ、ラ ハ、鎖骨ノ後部ニ在テ、外方ニ向ヒ、胸骨乳頭筋ト、不齊筋ノ間ヲ過キ、肩胛ノ上縁ヲ越ヘ、棘上窩ニ循リ、肩胛骨ニ密接シ、殊ニ棘上筋ニ散布ス。其經過中ニ、大小支ヲ分出シ、其小支ハ、肩頭ノ皮下ニ循リ、大支ハ、肩胛頭ノ後部ニ下テ、棘下筋ニ循ル、ハ、前支ハ、直ニ此支ハ、間鎖骨下動脈ヨリ、直チニ起ル丁アリ、或ハ、其支別ヨリ起ル丁アリ、又時トシテハ、腋下動脈ヨリ起ル丁アリ、ヒ、カ、ラ、ン、ス、ウ、エ、ル、ス、セ、ル

第五 横頭支 ヒ、カ、ラ、ン、ス、ウ、エ、ル、ス、セ、ル ハ、前支ハ、稍ヤ

ア、ト、ラ、ス、エ、ル、ス、ユ、リ

上外方ニ併行シ、僧帽筋下ニ在リ、不齊筋及ヒ上臂神經叢ト交叉シ、進テ肩胛骨上角ニ至リ、分テ二支ト為ル、即チ表頭支、後肩胛支是ナリ、

天 表頭支 ヒ、カ、ラ、ン、ス、ウ、エ、ル、ス、セ、ル ハ、上方ニ向

ヒ、僧帽筋ノ外縁下ヲ過キ、其筋及ヒ肩胛角舉筋、胸骨乳頭筋、近隣ノ水脈腺、皮膚等ヲ榮養ス。此支屢、上行頭支ノ分支ナル丁アリ、

地 後肩胛支 ヒ、カ、ラ、ン、ス、ウ、エ、ル、ス、セ、ル ハ、肩胛骨ノ基

礎部ニ沿ヒ、菱状筋下ニ下行シ、其筋及ヒ大鋸筋、潤背筋等ニ循リ、上肩胛支及ヒ下肩胛支ト

ヒ、カ、ラ、ン、ス、ウ、エ、ル、ス、ユ、リ

ア、ス、カ、ヒ、ユ、ラ、ス、ホ、ス、テ、リ、オ、ル、ス、カ、ヒ、ユ

合吻ス、

第六<sup>上</sup>行頸支カアスセル、アインデテン、セルヒハ、小支ニシ

テ、甲状軸、或ハ下甲状支ヨリ起ル、間又々他支ヨ

リ起ル、<sup>ア</sup>アリ不齊筋起根ノ前部ヲ過キ、其筋及

ヒ近隣諸筋、及ヒ水脈腺等ニ分布ス、

第七<sup>内</sup>乳動脈マイリンテアルナテリル、マムハ、甲状軸ニ

對向シテ、鎖骨下動脈ヨリ起リ、鎖骨ト肋骨ノ後

部ヲ下リ胸骨ノ側傍ニ沿ヒ、胸骨ノ下端邊ニ達

シ、分岐シテ、筋横膈支及ヒ上上腹支ト為ル此脉

分支及ヒ末梢ハ、即チ縦膈支、上横膈支、穿貫支、前

甲、カスセル、アインデテン

乙、マイリンテアルナテリル、マム

甲、メジアスチニカ

乙、ペリカルジラブレニカア

丙、マムマリ、アテリ  
ア、ベルホラシテス、エト、マ  
ムマリ、ア、エキステルナ

肋間支、筋肉横膈支、<sup>上</sup>腹支、是レ、<sup>リ</sup>、

イ、縦膈支ル、メジアスチニカハ、數條ノ小支ニシ

テ、前縦隔洞ノ諸部、即チ齋腺、氣管支、心囊、胸膜、

胸肋筋、及ヒ胸骨等ヲ榮養ス、

ロ、<sup>上</sup>横膈支ニ、ソ、ペリオル、プレハ、纖小ナル一支

ニシテ、殆ト絲ノ如シ、横膈神經ト共ニ、下行シ

テ、横膈ニ循ル、

ハ、<sup>丙</sup>穿貫支シ、ペルホラシテリテハ、五支或ハ六支ニシ

テ、同數ノ上位肋間ヲ、胸骨側傍ヨリ透過シ、大

胸筋ノ根蒂、及ヒ近隣ノ皮膚等ヲ榮養ス、此脉

婦人ニ在テハ中間ノ三支或ハ四支男子ヨリ  
モ巨大ニシテ乳房ニ蔓布シ以テ榮養ス故ニ

哺乳中ハ頗ル増大セリハ

二前肋間支アインテルコスタリス、アスターテリオル、アルテリリスハ尋常

毎肋間ニ二支アリ共ニ内乳動脈ヨリ起リ或

ハ前支ト侶合シ或ハ互ニ相離隔シテ外方ニ

向ヒ上位ノ五肋或ハ六肋間ニ進ミ大動脈ノ

肋間支ト合吻シテ肋間筋胸筋乳房腺及ヒ皮

膚等ヲ榮養ス

ホ筋肉横膈支モスキュロ、プレニキ、アーテリトハ内乳動脈ノ

アインテルコスタリス、アスターテリオル

モスキュロ、プレニカ

末梢分岐ノ外支ニシテ下外方ニ向ヒ諸李肋  
軟骨ノ後面ニ在テ最李肋間ニ彎曲ス其經過  
中ニ數支ヲ分出シテ下位ノ五肋間横膈附着  
部及ヒ腹筋等ニ循ル

へ上上腹支トリッピオ、エピガスハ内乳動脈

ノ連支ニシテ直筋後ノ腹壁ニ下リ特ニ其筋

突ニ分布シ外腸骨動脈ノ上腹支及ヒ他ノ腹壁

榮養支ト合吻ス

第八上肋間動脈ソペリオル、インテリコハ鎖骨

ノ後方ヨリ起リ第一肋ノ頭前チ下リ分岐シテ

エピガス、トリッピオ

ソペリオル、インテリコ



